

# 子ども会安全教育



愛知県子ども会連絡協議会

# 目 次

冒険のすすめ	1
1 安全とは	1
2 安全教育の指針	2
3 安全管理の基本	4
4 安全会対策と事故対応	10
5 安全教育の考え方	15
6 潜在危険のチェックポイント	17
7 安全確保と再発防止	20
8 指導者の役割と責任	21
9 子ども会K Y Tの活用法	22
10 危険予知トレーニングのすすめ方	23
資料	29

# 冒険のすすめ

遊びは子どもの社会化や人間形成にとって極めて重要なものです。子どもの遊びは何者にもとらわれない自発的・主体的・創造的活動そのものである。

子どもがおかれている状況を整えることによって、子どもの生活に本来の意味での遊びを回復させること、生命の完全燃焼を保障するような場づくりは極めて大切なことです。われわれ大人の課題は、子どもを遊ばせることではなく、遊ぶことの重要性について認識することと、そのための条件整備である。

冒険というと、大人は危ないということでそうした活動を制限しがちである。もちろん安全への配慮は必要である。しかしケガを恐れるあまりそうした経験を与えないことの方がもっと問題である。たくましさを育てるためには、それにふさわしい経験が必要である。

生きるとは活動することである。心身を活発に動かすことである。どんな場合、子どもの心身は活発に動くのか。それは子どもにとってやり甲斐のある活動、新奇な活動、発見・感動が伴う活動である。そうした活動は子どもにとって冒険そのものである。われわれは冒険を否定する大人ではなく、冒険を育てる大人でありたいと思う。

## 1 安全とは

子ども会育成者にとって、『子ども会活動』をケガもなくすすめることが、一番気になります。そのために大人から見て、危険性のあるものを取り除き子どもたちを安全なカコイの中に押し込んでしまう…という状態にともすればもっていってしまいます。

本当にこれでよいのでしょうか。子どもたちが『やった！』という満足感を、乗り越えたという感激を、味わうことができるでしょうか。

ある程度の危険な体験（少しぐらいのケガ）を経ることによって、万一の場合とっさの判断と回避することを体得していくようになるのです。

そのためには、育成者全員の活動への理解を深めるとともに、次の点に留意する必要があります。

(1) 子ども自身に「自分の安全は自分で確保する」という態度・心構えを持たせる

今は親がすぐに子どもを危険から遠ざけてしまうので、子どもは実際に危険と直面した時、その対処方法がわからない。『安全とは自分の力で危険を乗り越えていく能力』とするならば、年齢に応じた安全能力が身についているかどうか、

もしその能力がついていないならばどのように教えていくかを指導者は考えておかねばなりません。

(2) 活動中の事故をいかに防ぐか

子どもたちの年齢・体力・技量に応じたプログラムか、危険な場所や道具はないか、また指導者は適正に配置できるかなど、様々なパターンのチェックリストを作り、それに従ってプログラムをチェックすることが大切です。

(3) 事故が起こった時の対処は万全か

どれだけ準備を万全にしていても予期せぬところで事故は起こります。事故が起きた時、いかにすみやかな処置ができるかによって、当事者の被害も少なくて済みますし、後の問題になるか、スムーズに解決できるかの分岐点ともなります。応急手当、連絡方法、ケガ人の運搬可能な病院なども確実におさえておきましょう。また、安全会加入の確認も大切です。

(4) 指導者の技量にも目を向けよう

『ナイフでエンピツが削れない子ども』が話題になって、久しくなります。今でもよくこの言葉を耳にしますが、この言葉が使われだした頃の対象年齢の人たちは、今ちょうど子ども会指導者の年齢層になって、様々なところで活躍しています。中には、大人になった今でも、ナイフで上手に削れない人をよく見受けます。ナイフに限らず、自分の技量はどのくらいなのか、正確につかみましょう。

## 2 安全教育の指針

(1) 安全能力の確保

安全教育の目標は、安全能力を身につけることがあります。子どもの安全能力は危険に出会い、その危険を克服する経験を通してつくられるものです。大人から『アレはだめ』『コレをしてはいけない』とか、企画段階から『これは危険だからやめておこう』といった消極的な姿勢では子どもの安全能力は育ちません。ですから安全教育は、子ども会の活動プログラムが充実することと相まって初めてその目的も達成できることになるのです。

## (2) 冒険へのチャレンジ

『こわれそうだなあ』『でも登ってみたいなあ』と子どもは、一本の木を見た場合にもチャレンジへの欲望があります。これが活動への始まりであり、一人で登ったときの喜びや自信が成長するステップなのです。したがって子ども会活動には、冒険的なものが必要であり、子どもたちは小さな冒険から大きな冒険へと少しづつ挑戦し、それを乗り越えていく経験を通して安全能力を高めていきます

## (3) 安全教育の視点

『この活動は安全か危険か』という問いは重要なことです、子ども会にとって最も重要な問いかけは、『この活動は子どもの人間的成长にどのような意味をもっているか』ということです。活動の必要性が認識されれば、次は安全対策の検討準備が続くものです。このように子ども会の安全教育は、子どもたちが自らの力によって安全への確保・配慮ができるようにすることであり、指導者・育成者の立場からすればそのための環境整備が必要になってくると言えます。

### (参考例)

#### ――事故の誘因・4つの注意――

- ①環境（場・道具・交通機関）
- ②服装（プログラムに適した）
- ③心身の状態
- ④無知・無謀

### 3 安全管理の基本

一般留意点	<p>*子ども会の行き帰りの交通安全に留意 *準備運動・整理運動の徹底 *活動に適した服装と履き物で参加 *実施前、実施後の人員点呼の徹底 *救急薬品の準備 *傷害事故が発生した場合は報告書を</p>
-------	--

	育成者・指導者自身のために	子ども達に対しては
実施前	<p>こんなことぐらい知っているだろう、話さなくてもいいだろうという、安易な判断が思いがけなく事故を招く。</p> <p>心臓疾患や特異体質の子については、行事の種類に関係なく事故が想定されるので、あらかじめ親や子ども自身から聞いて知っておく必要があり行事当日には特にその体調に気を配っていくこと。必要に応じて医師の診断結果に従うことが大切である。</p>	<p>わからない点や、はっきりしないことについては、しっかり理解できるまで話しておく。 『してはいけないことは、絶対にしない』ということを守らせる。</p> <p>心臓疾患や特異体質の子は、自分の体調に十分留意させるとともに、そうした子ども達に暖かい心で接し、励まし合うようにする。</p>
実施中	<p>行事の引率者や指導者だけが安全の点検をするのではなく、子ども達自身にも気づかせ、考えて行動できるような指導をする。</p> <p>病気や体調について、具合が悪くなったら直ちに連絡する習慣と、平素から子ども達が何でも相談できるような雰囲気をつくっておく。</p>	<p>一人ひとりが、自分の安全に気をつけると同時に、仲間の安全に気を配りお互いに注意し合うようにする。</p> <p>病気や体調の具合が悪くなった時は育成者や指導者の人に早く正確に届出することを習慣づける。</p>
実施後	<p>万一事故が起きた場合、子ども達を冷静にさせ事故の処置を早くする。種類によっては、たとえ小さな事故でも直ちに専門医の治療を受ける。</p> <p>行事の詳細な記録をとっておいて、次回実施する場合の参考資料とする。</p>	<p>万一事故が起こった場合、育成者や指導者に従い、冷静に機敏に行動するように日常から指導しておく。</p> <p>必ず反省会を持ち、意見を出し合い次回はもっとよりよい行事になるよう話し合いをさせる。</p>

## 点検・確認のポイント

### 指導者・育成者の自己管理は？

- ① 昔とったきねづかとか、あれくらいのものを、と云う心。（自信過剰）
- ② 良いところを見せてやろうと誇らしげになるとき。（自己誇示）
- ③ 急に力をつかったとき。心と体の準備不足。（準備運動の不足）
- ④ 疲労をかくして無理をしているとき。（過労）
- ⑤ 服装がその運動や行事に適していないとき。

### 指導者の心がまえ－5－

1. 指導者の責任を自覚せよ  
(綿密・周到・沈着・決断・自然条件の分析と変化の予測)
2. 活動の準備、安全への配慮は十分か
3. 規律の確保につとめ、全員を確実に掌握せよ
4. 活動は、基礎的なものから応用的なものへ進めよ
5. 個人および集団の健康状態に注意せよ

### 使ainれない施設での注意－5－

1. 着いたらすぐに非常口の確認
2. よく磨かれた大きなガラスに注意
3. 廊下・階段ですべらないように注意
4. 扉の開閉に注意
5. 風呂の熱湯に注意

### 救急処置の原則

- ① 何をなすべきか、何をしてはならないかを落ちついて考えよ
- ② 出来るだけ速かに医師に連絡せよ
- ③ ショックの予防、大出血止血、呼吸停止には人工呼吸（マウスツーマウス法をせよ）
- ④ 判断に迷うときは、大事をとれ

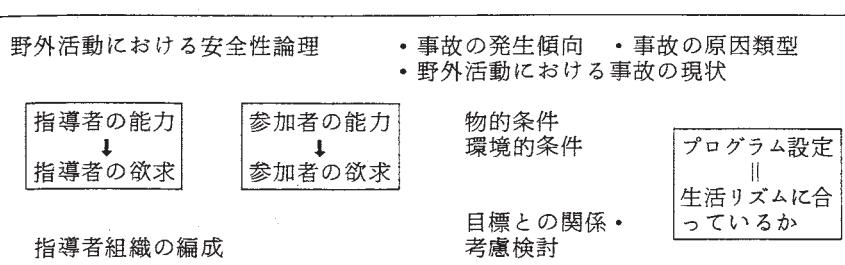
全子連発刊

「冒険と安全のための

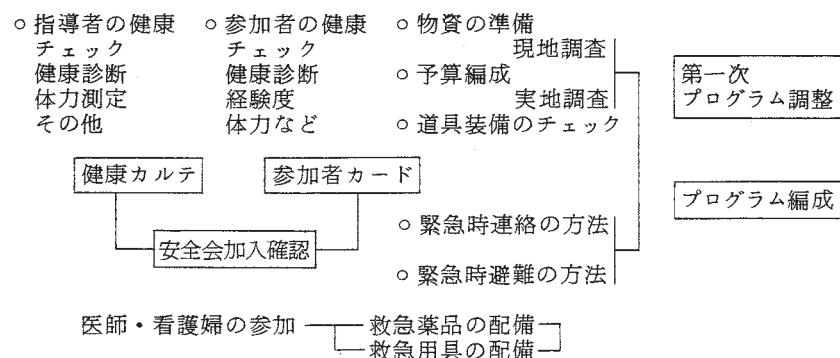
チェックポイント」より

## ■ 野外活動と安全についてのチェックポイント

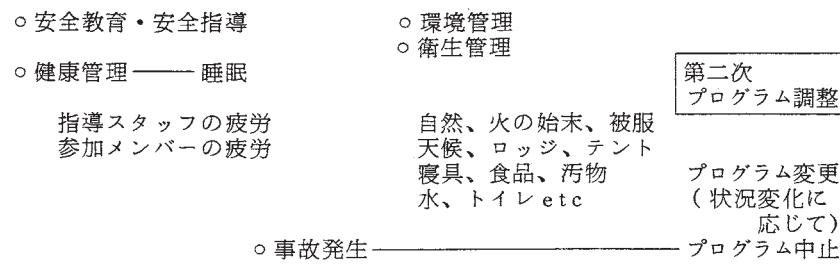
### 計画



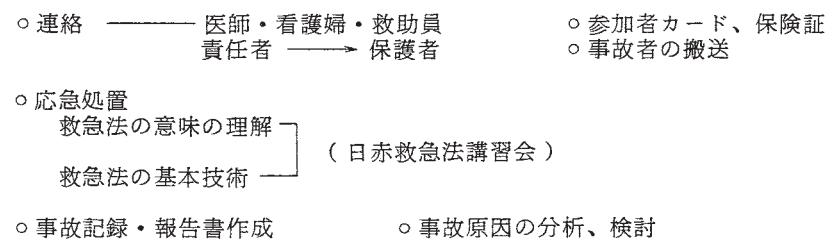
### 準備



### 実施



### 緊急 の 場合



## ■ 野外施設現地調査

施設調査項目		( )																																																							
◎ 実務連絡担当者名																																																									
<p>1. 野外施設について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 野外炊事場(　か所)           <ul style="list-style-type: none"> <li>有・無 施設 有・無</li> <li>● かもど 形式、数</li> <li>● 水道 有・無 台口数</li> <li>● 調理台 有・無 台</li> </ul> </li> <li>② 便 所(　か所)           <ul style="list-style-type: none"> <li>● 男用 小・大 数</li> <li>● 女用 数</li> <li>水洗式、汲取式、仮設</li> </ul> </li> <li>③ 旗ポール 有・無</li> <li>④ 照明設備 有・無(　か所)</li> <li>⑤ 屋根つき集会所 有・無(　か所) 広さ(　)</li> <li>⑥ テーブル、ベンチ 固定・移動(　か所)</li> <li>⑦ ゴミ処理方法</li> <li>⑧ 火焚き場 可・不可</li> <li>指定・指定無</li> </ul>																																																									
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 料理用具の借用           <ul style="list-style-type: none"> <li>はんごう 無・有 無料・有料(　)</li> <li>なべ 無・有 無料・有料(　)</li> <li>やかん 無・有 無料・有料(　)</li> <li>ナタ 無・有 無料・有料(　)</li> <li>ボリタンク 無・有 無料・有料(　)</li> <li>ボリバケツ 無・有 無料・有料(　)</li> <li>その他(　)</li> <li>まき 炊事用 質(難・易) 1把 円(　)</li> <li>C.F.用 時間分 1セット 円(　)</li> </ul> </li> </ul>																																																									
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 食糧調達           <ul style="list-style-type: none"> <li>センター・仲介・業者直取引(　)</li> <li>調達方法(　)</li> <li>支払方法(　)</li> <li>配送時間 きまっている・依頼により自由</li> </ul> </li> </ul>																																																									
<p>2. 施設に関して(施設利用のルール)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 料 料           <table border="0"> <tr><td>施</td><td>設</td><td>無・有(　)</td></tr> <tr><td>キ</td><td>ン</td><td>ブ</td><td>場</td><td>無・有(　)</td></tr> <tr><td colspan="4">ハイキング・コース</td><td>無・有(　)</td></tr> <tr><td colspan="4">オリエンテーリング</td><td>無・有(　)</td></tr> <tr><td colspan="4">歌</td><td>集</td><td>無・有(　)</td></tr> </table> </li> <li>● 到着時オリエンテーション 無・有(　分)           <ul style="list-style-type: none"> <li>起床 時 分 合図 無・有(　)</li> <li>消灯 時 分 合図 無・有(　)</li> </ul> </li> <li>● 施設職員           <table border="0"> <tr><td>管理者</td><td>名</td><td>(うちテントサイト関係)</td><td>名</td></tr> <tr><td>指導専門職</td><td>無・有</td><td>名</td><td>(種目: レクリーダー、自然地史)</td></tr> <tr><td>保健婦</td><td>名</td><td>(　)</td><td>(　)</td></tr> </table> </li> <li>● 施設内使用           <table border="0"> <tr><td>1. 食 堂: 不可・可(同時利用定員 名まで)</td></tr> <tr><td>朝食 無・有(　円)</td></tr> <tr><td>昼食 無・有(　円)</td></tr> <tr><td>夕食 無・有(　円)</td></tr> <tr><td>申込方法(　)</td></tr> </table> </li> <li>2. 売 店: 不可・可 時 分～ 時 分           <table border="0"> <tr><td>主な購買品と価格(　)</td></tr> </table> </li> <li>3. 入 浴: 不可・可 時 分～ 時 分           <table border="0"> <tr><td>浴室内・シャワーのみ 料金(　)</td></tr> <tr><td>同時利用可能人員 名</td></tr> <tr><td>シャワー数(　)</td></tr> <tr><td>予約方法(　)</td></tr> </table> </li> <li>4. 集会室: 無・有 不可・可 無料・有料(　)           <table border="0"> <tr><td>予約方法(　)</td></tr> <tr><td>利用時間帯 時 分～ 時 分</td></tr> <tr><td>用途(　)</td></tr> <tr><td>収容人員(　)</td></tr> <tr><td>貸出備品(　)</td></tr> </table> </li> <li>● 野営資材の借用           <table border="0"> <tr><td>テント 人用 無料・有料 設(　)</td></tr> <tr><td>人用 無料・有料 設(　)</td></tr> <tr><td>人用 無料・有料 設(　)</td></tr> <tr><td>毛 布 無・有 無料・有料(　)               <ul style="list-style-type: none"> <li>(枚数あたり 枚)</li> </ul> </td></tr> </table> </li> </ul>			施	設	無・有(　)	キ	ン	ブ	場	無・有(　)	ハイキング・コース				無・有(　)	オリエンテーリング				無・有(　)	歌				集	無・有(　)	管理者	名	(うちテントサイト関係)	名	指導専門職	無・有	名	(種目: レクリーダー、自然地史)	保健婦	名	(　)	(　)	1. 食 堂: 不可・可(同時利用定員 名まで)	朝食 無・有(　円)	昼食 無・有(　円)	夕食 無・有(　円)	申込方法(　)	主な購買品と価格(　)	浴室内・シャワーのみ 料金(　)	同時利用可能人員 名	シャワー数(　)	予約方法(　)	予約方法(　)	利用時間帯 時 分～ 時 分	用途(　)	収容人員(　)	貸出備品(　)	テント 人用 無料・有料 設(　)	人用 無料・有料 設(　)	人用 無料・有料 設(　)	毛 布 無・有 無料・有料(　) <ul style="list-style-type: none"> <li>(枚数あたり 枚)</li> </ul>
施	設	無・有(　)																																																							
キ	ン	ブ	場	無・有(　)																																																					
ハイキング・コース				無・有(　)																																																					
オリエンテーリング				無・有(　)																																																					
歌				集	無・有(　)																																																				
管理者	名	(うちテントサイト関係)	名																																																						
指導専門職	無・有	名	(種目: レクリーダー、自然地史)																																																						
保健婦	名	(　)	(　)																																																						
1. 食 堂: 不可・可(同時利用定員 名まで)																																																									
朝食 無・有(　円)																																																									
昼食 無・有(　円)																																																									
夕食 無・有(　円)																																																									
申込方法(　)																																																									
主な購買品と価格(　)																																																									
浴室内・シャワーのみ 料金(　)																																																									
同時利用可能人員 名																																																									
シャワー数(　)																																																									
予約方法(　)																																																									
予約方法(　)																																																									
利用時間帯 時 分～ 時 分																																																									
用途(　)																																																									
収容人員(　)																																																									
貸出備品(　)																																																									
テント 人用 無料・有料 設(　)																																																									
人用 無料・有料 設(　)																																																									
人用 無料・有料 設(　)																																																									
毛 布 無・有 無料・有料(　) <ul style="list-style-type: none"> <li>(枚数あたり 枚)</li> </ul>																																																									
<p>3. 野外プログラムに関して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 登山コース 無・有(　)           <ul style="list-style-type: none"> <li>所要時間(　)</li> <li>距離(　)</li> <li>路線交通(　)</li> </ul> </li> <li>● O.L.コース 無・有           <ul style="list-style-type: none"> <li>所要時間(　)</li> <li>ポイント数(　)</li> <li>シルバコンパス貸出 無・有(　)</li> <li>O.L.マップ貸出 無・有(　)</li> </ul> </li> <li>● ハイキング・コース 無・有(　)           <ul style="list-style-type: none"> <li>所要時間(　)</li> <li>距離(　)</li> </ul> </li> <li>● 野外ゲームエリア 無・有(　)</li> <li>● 集会のひろば 無・有(　)</li> <li>● 野外ステージ 無・有(　)</li> <li>● C.P.サークル ケ所           <ul style="list-style-type: none"> <li>使用時間(　)</li> <li>使用予約 不要・要(　)</li> </ul> </li> </ul>																																																									
<p>4. 安全・管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員巡回点検 無・有(1日 回)</li> <li>● 外出時許可 不要・要( 時 分～ 時 分 )           <ul style="list-style-type: none"> <li>届出方法(　)</li> </ul> </li> <li>● 立入禁止区域・危険区域 無・有、表示 無・有(　)           <ul style="list-style-type: none"> <li>理由(　)</li> </ul> </li> <li>● 救急体制 施設外救急機関 無・有           <ul style="list-style-type: none"> <li>病院名(　)</li> <li>連絡法(　)</li> <li>連搬法(　)</li> <li>所要時間(　)</li> </ul> </li> <li>● 深夜の救急態勢と方法(　)</li> <li>● 荒天その他の緊急避難場所 無・有           <ul style="list-style-type: none"> <li>場所(　)</li> <li>收容人員(　)</li> </ul> </li> <li>● 外部との連絡方法 事務室・売店・公衆電話           <ul style="list-style-type: none"> <li>利用時間(　)</li> </ul> </li> </ul>																																																									

■ 安全チェックシート

ソ フ ト ボ ー ル 練 習	
チ ェ ッ ク ポ イ ン ト	
○ 服装はよいか	1. 体操服・運動ぐつ・帽子など。
○ 用具はよいか	1. ボール・バットは規定にあってるか。 2. キャッチャーマスクはあるか。 3. バットのグリップ・グローブの破損はないか。
○ 広場はよいか	1. 広場に危険物はないか。 2. 各ラインは正確に引かれているか。
練習前に	1. 各選手の体調を確認したか。 2. 各ゾーン使用時の注意事項・禁止事項の説明をしたか。 3. バットの素振りは定められた場所ですることを伝えたか。 4. スライディング時の注意を与えたか。 5. ベースは固定しないということを守っているか。 6. キャッチャーマスクの着用を義務づけたか。 7. 選手同士の衝突をさけるための注意を与えたか。
練習中に	1. 軽いランニングを行なったか。 2. 準備体操を行なったか。 3. 低学年に無理のないような方法を講じたか。 4. 途中でミーティングを兼ねた休憩をもうけたか。 5. 練習時に指導者・育成者は広場のまわりにも気をくばったか。
練習後	1. 整理体操を行なったか。 2. 危険なプレイについての注意を与えたか。 3. 各選手の体調を確認したか。 4. 往復途上の交通安全に注意したか。
○ 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 救急薬品の準備をしよう。</li> <li>※ 事故の場合の緊急連絡先（もよりの病院・診療所など）の確保をしよう。</li> <li>※ 事故が発生した場合は市町村子連事務局・市町村子連役員へすみやかに連絡のこと。</li> <li>※ 事故報告書を提出のこと。</li> </ul>

■ 安全チェックシート

ハイキング		
チェックポイント		チェック
<input type="radio"/> 服装はよいか	1. 長そで・長ズボン・帽子・くつなど。	
<input type="radio"/> 持物はよいか	1. こども会旗・班旗は持っているか。	
	2. 救急用具・ハンドマイクは用意しているか。	
<input type="radio"/> 個人	3. 雨具・水筒・安全カード・ごみぶくろ・三角きん・軍手（木綿）・タオルなど。	
出発前に	1. 人員点呼はしたか。	
	2. メンバーの体調を確認したか。	
	3. 交通ルールの説明はしたか。	
	4. 一応のコースの説明をしたか。	
	5. 各班のリーダーは決まっているか。	
	6. 各班のリーダーにコースの地図または目的地への順路休憩地点などの記入したものを持たせたか。	
	7. 緊急の連絡方法（体制）はできているか。	
	8. 人員点呼は必要に応じて行う体制になっているか。	
	9. 天気予報の確認をしたか。	
ハイキング中に	1. メンバーの健康状態はよいか。	
	2. メンバー全員が行動を共にしているか。	
	3. 途中での参加人員の確認はできているか。	
	4. 無理のない歩き方ができているか。 (低学年・足の弱い人が前になっているか。)	
	5. グループから離れている者はいないか。	
	6. 前後の確認などの安全対策はとれているか。	
	7. 各自のゴミは始末できているか。	
	8. 育成者・指導者は周りに気を配っているか。	
休憩中	1. メンバーの健康状態はよいか。	
	2. トイレの確認はできているか。	
	3. 生水は飲んでいないか。	
解散時	1. 人員点呼はしたか。	
	2. 参加者全員の健康状態を確認したか。（病気・ケガなど）	
	3. 帰路の交通安全の注意をしたか。	
<input type="radio"/> 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 救急薬品の準備をしよう。</li> <li>※ 事故の場合の緊急連絡先（もよりの病院・診療所など）の確保をしよう。</li> <li>※ 事故が発生した場合は市町村子連事務局・市町村子連役員へすみやかに連絡のこと。</li> <li>※ 事故報告書を提出のこと。</li> <li>※ 現地調査を行い危険場所は調べてあるか。</li> <li>※ 天候急変の処置について考えているか。</li> <li>※ リュックサック・ナップザックで参加しているか。</li> </ul>	

## 4 安全対策と事故対応

### (1) 安全対策

安全教育と安全対策は表裏一体のものです。いわゆる安全教育が立派に行われているならば、確かに事故は減少することでしょう。しかし、活動をする限りにおいて何らかの事故は発生するものです。

これらの事故の発生を防ごうとするものが安全教育であるとするならば、安全対策は直接事故との関連に重点を置いて行うものといってよいでしょう。

これには直接事故の発生を想定しながら、事故発生時または、その後の処置をどのようにするかを考えましょう。

- ア 安全の確保…環境の整備、調査 安全能力のトレーニング
- イ 事故対策……応急の救急体制（救急法などの技術習得）  
安全会の加入（見舞金・保険制度の導入）

### (2) 事故発生時の処置

#### ア 被害者に対する措置

事故の程度に応じて人命救助、健康保全のため必要、適切な処置をとること

#### イ 医師、消防署、警察への通報

『いつ、どこで、だれが、どうしたか』報告し、『いましなければならないことは何か』指示をうける

#### ウ 病院に対する措置

事故の状況に応じて適切な病院を選ぶこと

#### エ 現場保全と記録を確実に

現場写真の撮影、事情聴取、図面の作成、証拠の保全、証拠隠滅の防止  
(目撃者の住所、氏名など第三者の立合い)

#### オ 利用施設に対する措置

施設の管理者に対して事故の状況を報告、説明をする

### (3) 応急救手当

急病やケガをしたとき、現場すぐに正しい応急救手当が施され、病院へ運ばれた人は回復も早いとのこと。日頃から、最低必要な応急救手当をマスターしておきましょう。

## 出血

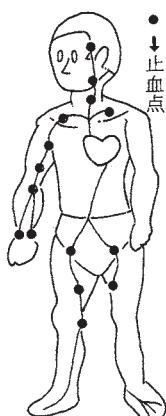
水道の水で土や砂を洗い流して清潔なガーゼをあてる。

止血法(1) 直接圧迫法



止血法(2)

直接圧迫法で止まらないときは出血部より心臓に近い止血点を指または手で骨の方に圧迫する。



側頭動脈  
頭皮からの  
出血



桡骨動脈及び  
尺骨動脈手か  
らの出血



顔面動脈  
顔面からの  
出血



上腕動脈  
前腕からの  
出血



頸動脈  
顔面、頭皮  
からの出血



大腿動脈  
下肢からの  
出血



鎖骨下動脈  
上肢、手か  
らの出血



前脛骨動脈  
及び後脛骨  
動脈  
足からの出血



## 日射病



涼しい風通しのよい所にねかせる。  
衣服をゆるめ、頭を冷やし、冷たい飲み物  
を与える。

## 貧 血



衣服をゆるめ、足を高くする。

## 骨 折

骨が折れているかどうかの判断は、①腫れる ②形が変わってくる ③皮膚の色が変わってく  
る ④動かしたり、その部分に触れたりするとはげしい痛みがある ⑤動かせなくなる ⑥ひど  
いと折れた骨の端が皮膚を破って飛び出し、出血することがある。…などから。

骨折しているかどうかわからない時は、骨折していると考えて手当をしておくこと。

ア 骨折部を安静に

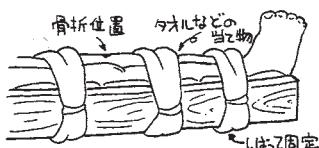
イ 副木をあて、動かないように固定

ウ 副木をあてたあと血行障害を行すこともあるので約30分おきにしづら具合を調べる。

エ 痛みのはげしい部分を冷やす

オ 傷のあるときは、傷口を洗わず、清潔な布やガーゼをあてる。

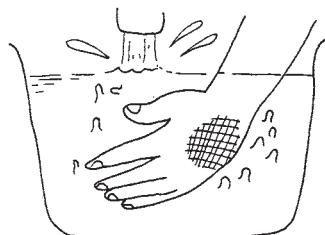
突き出ている骨は押しこまないように。



## やけど

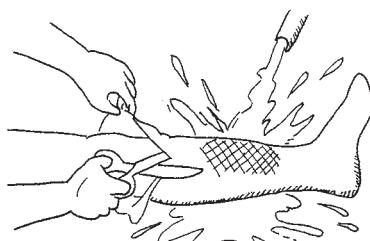
- ① 受傷部位に水道水をかけ続けて受傷部位を  
じゅうぶん冷やす。

熱の作用によって皮膚に変化をきたすので  
一刻も早く冷やすことが治りを早くする。



- ② 直接水道の蛇口から水をかけるときは水疱  
や、はがれかけた表皮を損傷しない程度の強  
さに水を調節する。

- ③ 衣服の上から熱湯をかけた場合は、衣服を  
1秒でも早く皮膚から離す。



水疱を破らないように注意！

### 冷却時間

- ① 冷やす時間はできるだけ長い方がよいがや  
けどの程度によっても変わる。
- ② 一般に軽症の場合は、最少限度10～20分く  
らい。
- ③ 受傷範囲が広く重症の場合は、何時間も冷  
却を続けますが最低30分～2時間くらい冷や  
すことが必要。
- ④ この場合小児や老人では体温の調節に注意  
しないと風邪をひかせることになるので注意  
が必要。

受傷部位は水で冷やしたままで清潔に保ちながらできるだけ早く病院につれて行き、一般の方  
はいじらない方がよい。

### うちみ、骨折の兆候による判断と応急手当

手 と 足	皮膚が青くなっている場合は、皮下出血、骨折のある場合もあります。 • 患部を冷湿布。 • はれがひどく痛みのはげしい時は、医師へ早急に。
頭 と 胸	目、鼻、口、耳などからひとすじでも出血があれば重症、吐き気、失神も……。 • 軽いと思っても安静にして医師へ。 • 息が止まつたらすぐ人工呼吸をすること。
腹	直後は元気でもしばらくして急に倒れることもあります。 軽いと思っても内臓損傷の可能性もあるので医師の診療を。 • 水平に寝かせる。 • 飲み物、とくにアルコール類は絶対に与えない。 • 吐く場合は、からだを横に向けて、窒息しないようにしましょう。

### (7) 救急箱の中味

#### A どんな小さな救急箱にも必要なもの。

器 材	ハサミ、ピンセット、綿棒(ヨウジ代用してもよい) 筆記用具、メモ、鉛筆
ホウタイ 材料	ホウタイ〔4裂(号) 6裂(号) 8裂(号)〕 ガーゼ、救急バンソウコウ、脱脂綿(キズ口につけないこと) バンソウコウ(テープを代用してもよい)、三角巾
薬 品	外傷用消毒 消毒薬 内服 薬 頭痛・解熱剤

#### B さらに入れてあると便利なもの。

器 材	体温計、毛抜き
ホウタイ 材料	ホウタイ止、油紙、眼帯
薬 品	70%消毒用アルコール(手指消毒、器具消毒) 湿布剤(ゼノールなど)、抗生素質軟コウ(すり傷、ヤケド、おでき)、 抗ヒスタミン軟コウ(湿しん、じんましん)
	内服 薬 乗物酔い防止薬

#### C 備えつけ用として入れておくと便利なもの。

器 材	大型ハサミ、舌圧子(スプーン)
ホウタイ 材料	布バンソウコウなど
外 用	ホウサン(2%液として洗眼、湿布を使う) 亜鉛華軟コウ(軽いやけど、おでき、皮膚炎)
内服 薬	解熱剤、歯痛止剤、健胃剤、整腸剤、緩下剤
眼 用 薬	軟コウあるいは点眼剤

#### 一 救急箱の注意 一

救急箱は、いざというときに、本当に役立つように、つねに整備されていなければなりません。手持ちの救急箱をいま一度点検してください。

## 5 安全教育の考え方

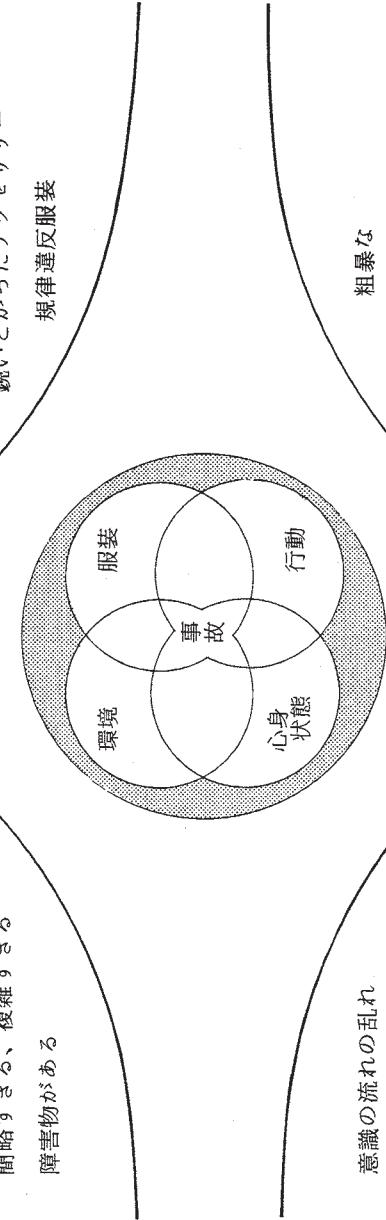
### 「1人1人の安全能力を伸ばすために」

安 全 教 育	子 ど も の 安 全 確 保	指 導	知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>○潜在する危険を予知、予見、予測することができます</li> <li>○事故は何故おこるのか、事故の原因をよく理解し、正しい判断のうとくに、これらに対処することができます</li> </ul>
			技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動内容に運動技能が適合しているか、技術に適合した指導をする</li> <li>○実際に体験し、経験をつむ</li> <li>○生活技術の点検をする</li> </ul>
安 全 教 育	子 ど も の 安 全 確 保	指導	態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進んでできまりを守り、安全に行動ができる</li> <li>○自分の行動が仲間や集団全体に及ぼす影響を考えることができます</li> <li>○今向をするときなのか、自覚することができると</li> </ul>
			習慣 價 値	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的生活習慣（食事（偏食をしない）・睡眠（早寝早起き）・排泄（健康管理）・着脱衣（自分で出来る）清潔（ハシカチ、はなみみ等））の確立をする</li> </ul>
安 全 教 育	子 ど も の 安 全 確 保	指導	体力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日の生活中に、身体活動（ラジオ体操等）を取り入れる</li> <li>○基本的生活習慣をとりもどすための活動をする</li> <li>○家庭内活動を含めた地域全体活動としての生活運動を推進する</li> <li>○活動の前後に活動に適した準備運動、整理運動をする</li> </ul>
			行動的 的 活 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年齢・能力に合せたスポーツ大会を推進する</li> <li>○年齢・能力に合せた役割分担を推進する</li> <li>○精神的・身体的能力の増進を図る</li> </ul>
安 全 教 育	子 ど も の 安 全 確 保	指導	安全 能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画準備における安全点検 <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の年齢や能力に応じたものであるか</li> <li>・集合場所・活動場所（往復途中を含む）は、事前に充分調査ができるか</li> <li>・指導体制や役割分担が明確にされ、一貫した指導指示がとれるか</li> <li>・子ども会員の心身状態、行動、服装、及び環境等事故につながるものはないか</li> <li>・計画が参加者、保護者、関係機関等に周知徹底されているか</li> <li>・子どもの要求する行事であるか</li> </ul> </li> <li>○実施時における安全点検 <ul style="list-style-type: none"> <li>・往復途中での交通安全指導をする。</li> <li>・K Y T の実施</li> <li>・参加者の健康状態、服装や携帯品を確認し、仲間の安全にも気を配るよう指導する</li> <li>・注意すべき点、ルールや心得をしっかりとさせる</li> <li>・集合、解散時等必要に応じて人員、体調などの確認を行う</li> <li>・活動中においては、全般的な監視体制を確保する</li> <li>・生命の危険に直面する場合は躊躇することなく中止する</li> <li>・計画（予定）変更の場合は、充分話合い適切な方法をとる</li> <li>○反省時における安全点検 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけでなく仲間の安全にも気を配られたか</li> <li>・事前に決められた事が守られたか</li> <li>・危険を感じた時の対処の仕方は適切であったか</li> <li>・安全指導、安全対策は適切であったか</li> </ul> </li> <li>○指導書（子ども会活動の振興と安全・冒險と安全のためのチェックポイント等）を基に研修させて実践的なアドバイスをしていく</li> <li>○子ども会K Y Tの活用について話し合う</li> </ul> </li> </ul>
			事故 対 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事故発生時の対応の仕方を予め定めておく（連絡方法、救急病院の確認）</li> <li>○応急処置としての救急法を習得する</li> <li>○救急箱を準備する</li> </ul>
安 全 教 育	子 ど も の 安 全 確 保	指導	教 育 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国子ども会安全会加入の確認をする【県子連安全会（見舞金+賠償責任保険）】</li> <li>○安全カードを携帯する</li> </ul>
			安全 会	

暗すぎる、明るすぎる  
せますすぎる、広すぎる  
高すぎる、低すぎる  
突き出ている、へこんでいる  
浅すぎる、深すぎる、寒すぎる  
暑すぎる、冷たすぎる、熱すぎる  
小さすぎる、大きすぎる  
長すぎる、短かすぎる  
見えにくい、錯視しやすい  
聞こえにくい、聞きまちがいやすい  
細すぎる、太すぎる、滑らかすぎる  
軽すぎる、重すぎる、凹凸がある  
透明である、不透明である  
光りすぎる、目立たない  
簡略すぎる、複雑すぎる  
障害物がある

ドレッサーすぎる、スポーティすぎると  
肌を露出しすぎる、くるみすぎる  
衣服の重量が大きすぎる  
衣服が脱ぎにくく  
肌に密着しすぎるデザイン  
肌を開放しすぎたデザイン  
長すぎる、短かすぎる、色彩が明るすぎる  
暗すぎる、被り物が目や耳の働きを妨げる  
はきもの底が薄すぎる、高すぎる  
はきものが脱げやすい、脱ぎにくく  
両手に荷物をもつての、はだしの  
両手をポケットに入れての  
荷物が多すぎる  
抱っ子バンドを吊つての  
鋭いとがったアクセサリー

規律違反服装



意識の流れの乱れ  
意識の固定…一事に熱中  
意識の頻回迂回…注意散漫  
意識の大きな迂回…物思い、悩み  
意識の寸時中断…いねむり、ほんやり  
意識の長時中断…てんかん  
意識の奔逸…精神病的発作  
意識の低下…心身の疲労困憊  
意識の高揚…異常な興奮  
意識の薄弱…眠気、酩酊  
意識の急迫…あせり、あがり  
意識の高低…不安、恐怖

粗暴な  
無知と機能未発達の  
仮空と現実の区別と無視の  
無知と無謀な冒險的な  
無知と好奇心による悪戯の  
規則（作業・乗車・降車・乗船・  
下船・速度・歩行・停止・横断…）違反の  
ルール違反すればのスポーツマナーの  
正常手順をふまない自己流作業の  
技能未熟なのに高度技術にいどむ  
礼儀や作業を無視した  
精神的にみて幼稚な、甘えの  
無知と誤解による  
誤解や錯覚による

(参考例)

こんな時こんな事故が！



—「安全教育ノウハウ」(全子連)より—

## 7 安全確保と再発防止

事故が起こってしまった場合、不可抗力であったとか、運が悪かったための事故であった等の受け取り方をしやすいものですが、そうした受動的な係わり合いではなく、潜在危険を予知・予測し主体的に対処する能力が必要なのです。

そのためには事故発生の要因を整理し、それに応じた安全教育を行うことが必要です。

いったん起きてしまった事故は貴重な体験として二度と起こしてはならない努力が必要であり、また他の子どもも会の事故であっても情報とし間接体験としてとらえ事故要因を追及し、これを除去することが肝要です。

それには事故の状況をできるだけ詳しく記録保管し、今後の対応について全員で検討し事故防止に努めることが大切です。

### 事故状況について

#### ○転倒して、骨折をした

物にひっかかった……事前に取り除くことができなかつたか。

目に付きにくいものであったか。

滑った…………地面が滑りやすくなつていなかつたか。

靴が滑りやすいものではなかつたか。

本人の不注意……ふざけて歩いていた。 (指導者に誤りはなかつたか)

他に気をとられていた。

寝不足であった。

あわてていた。 (プログラムに無理がなかつたか)

以上、ほんの一例であるが、原因を詳しく把握することによって今後の事故再発を少しでも軽減していきたいものです。

## 8 指導者の役割と責任

指導者は子ども会活動において、可能な限り事故を防ぐための方法を講じなければならないが、同時に事故ばかり恐れて実施する活動やその進め方が消極的になってしまい、その結果子ども会活動の目的を忘れることがあってはならない。

指導者は常に指導者としての自覚を持って責任を果たさなければならぬ。また役割の分担も明確にし、相互の連携が密に図られるように努めなければならない。

子ども会指導者は善意のボランティアとして活動しているが、その責任においては、他の場合と何ら異なるところはなく、道義的責任はもちろんのこと、事故のケースによっては法律上の責任を伴うものである。

### (1) 道義的責任

子ども会指導者として、また成人として、どんな場合でも道義的責任が伴うことは当然である。

### (2) 法律上の責任

子ども会活動中に不幸にして事故が発生した場合、それぞれのケースによって法律上の責任は異なるが、法律上の責任には、大きく分けて次の二つがある。

ア 民事責任は民法等に基づくもので、事故によって実際に発生した被害者の損害を賠償し、私人の間の関係として被害者の救済を図るものである。

イ 刑事責任は刑法に基づくもので、違法な行為により社会の秩序を乱したことについて社会的な制裁を加えるという、社会に対する責任であり、一定の行為（犯罪）に対して国が行為者を処罰し、犯罪への対応とその予防、行為者への応報とその予防、行為者の矯正を狙いとしている。

○法律上の責任と、事故の原因の関係について大別すると、次のとおりである

(ア) 指導者に責任がある。

- a 指導者の故意が原因となるもの
- b 指導者の過失が原因となるもの

(イ) 指導者に責任はない。

- a 不可抗力が原因となるもの
- b 被害者自身の不注意が原因となるもの（指導者に故意、過失がない場合）
- c 被害者自身が危険を承知して参加しており、やむを得ないもの（指導者に故意、過失がない場合）

(ウ) 指導者が施設の設備・管理者である場合は責任がある。

施設・設備の不備（瑕疵）が原因となるもの

## 9 子ども会KYTの活用法

子ども会KYTは、子どもたちの学習意欲・危険予知能力を引き出す安全教育材料として、子ども会関係者をはじめ、多くの方々に喜ばれているものです。

### ○ひろく活用される子ども会KYT

子ども会KYTは子ども会だけではなく、他の社会教育団体や学校などでも広く活用されています。例えば、学校では交通安全指導に、遠足や林間学校、または修学旅行の事前学習に子ども会KYTが活用されています。

### ○KYT（危険予知トレーニング）とは

子ども会KYTは、産業界における危険予知トレーニングをもとに考案されたものです。KYTは、毎日の産業過程において注意を怠ると災害につながる点をイラストにより事前にチェックする目的で作成され。現在は毎日の作業前に今日の仕事に対する心構えを作り出すねらいで「みんなで、早く、正しく」というゼロ災害運動方式のKYTへと発展してきたものです。

### ○子ども会でのKYT

楽しい子ども会活動の中にも『危険』が隠れています。楽しい子ども会活動も一度事故が起きてしまうとつまらないものになってしまいます。事故防止の第1歩は、『危険』を知り、特に『潜在的な危険』を発見し、あらかじめ安全に対する心構えをもっておくことが重要です。

子どもたちは、『危険予知』『危険回避』能力の点でいくつかの課題があります。直接体験が不足しているため、活動のなかで潜在的な危険を発見し、それを回避する力が衰えているのです。

そこで、子ども会でもKYTを用いて活動にどのような危険が潜んでいるのかを予知し、子どもたちの危険予知能力を高め、危険を回避する力をつけていく必要があるのです。

### ○子ども会KYTの活用

子ども会KYTは、研修会だけの学習だけでは、実際の活動と結びつかず、効果が上がりません。活動の前だけに行うのでは、時間がかかりすぎて活動の時間が短くなるといった状況があります。また、KYTを行う意義も理解されないこともあります。

KYTの意味を研修会でよく理解し、活動の前にも必ず実施することが真の安全確保につながります。

### ○KYT 4ステップと9ステップ

危険予知トレーニングには4ステップ（P23～参照）と9ステップ（P38参照）の2通りのやり方があります。4ステップは初めてKYTを行う指導者等にやってもらい、KYTは安全教育に必要だと理解してもらいます。また、子どもにも研修会等でKYTを行い安全教育の大切さを理解してもらいます。

9ステップは4ステップの上級編で、KYTを経験したことのある指導者に進めてもらいます。4ステップと異なる箇所は、危険箇所を分類別に絞りこみをし、その対策を考えるところです。

# 10 危険予知トレーニングのすすめ方

みんなで考えよう 危険予知トレーニングシート

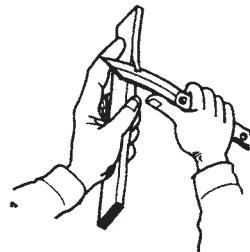
## 1. KYTとは

安全を確保するにはまず、“危険を予知”すること  
ができないければ、その“危険を回避”することはでき  
ません。そこで産業界では、イラストシートを使って、

- ①危険を発見し
- ②あらかじめ対策を考え
- ③立てた対策を一人ひとりが守るように
- ④注意を呼び起こすトレーニングを

永年の間、各職場ですすめてきました。これを危険予  
知トレーニングの頭文字をとってKYTと略称してい  
ます。

つまり「全員参加でチームワークや感受性を高め、  
みんなで危険を発見し、対策を考え合い、わかり合っ  
て実行する」といったねらいで多くの職場で実践され、相当な成果をおさめてきまし  
た。



折たたみナイフを使って工作をしています。

## 2 KYTのすすめ方

### (1) KYTの特色

- ① 指導者が一方的に“注意”を指示するのではなく、子ども自身が具体的な問題と  
して考える仕組みになっている。
- ② ゲーム的要素があるので興味がわく。
- ③ 興味が持てるので、話し合いが活発になる。
- ④ 小集団活動の促進とグループワークの実習になる。
- ⑤ 注意力がうながされ、危険に対する关心が高まり、具体的な安全教育になる。  
などがあげられます。

### (2) 4ステップですすめるKYT

#### [準備]

- ① イラストシート（グループ分）、模造紙（各グループ2枚）、マジック（黒・赤）（黒板、白ボクでもよい）を準備。
- ② 1グループを10名前後とする。
- ③ 役割分担 リーダー、記録を決める。
- ④ 時間の配分 各ステップごとに何分かけるか、特に何項目程度出すかなど決め  
ておく。
- ⑤ トレーニングの趣旨の説明 はじめて行なう場合には、なぜ行なうのかをわか  
りやすく説明する。

#### 第1ステップ

模造紙1枚目	
◎○	特気 にを 気つ ける つる け ること
シートNO	グループ名
第1ステップ	
1 ○○なので XXになら 2 ○○して XXになら 3 ..... 4 ..... 5 ..... 6 .....	
15 .....	

#### 第2ステップ

シートNO	グループ名
第1ステップ	
◎1 ○○なので XXになら 2 ○○して XXになら 3 ..... 4 ..... 5 .....	
6 .....	
15 .....	

#### 第3ステップ

シートNO	グループ名
第3ステップ	
◎1 ○○なので XXになら 1 ..... 2 ..... 3 .....	
◎5 .....	
1 .....	
2 .....	

#### 第4ステップ

シートNO	グループ名
第3ステップ	
◎1 ○○なので XXになら 1 .....	
◎2 .....	
◎3 .....	
◎5 .....	
1 .....	
2 .....	
第4ステップ (グループの行動目標) ○○と××で○○します	

- ⑥ 話し合いの進め方説明 ブレーンストーミングの4原則を活用：・他人の発言を批判しない ・発言は質より量 ・自由に発言 ・他人のアイデアを加工して発言

子どもにはわかりやすく、・全員がどんどん発言 ・議論はしない、させない  
・気がついたことを遠慮なく発言するなど

#### KYTの4ステップとは

第1ステップ どんな危険がかくれているか……………（危険の発見）

- ① リーダーがイラストシートを見せて状況を読み上げる。
- ② メンバーはその状況の中に自分を置いて、危険の要因を発見し「～して～になる」「～なので～になる」というようにどんどん発言する。
- ③ 記録係は模造紙または黒板に要点を個条書きにする。
- ④ リーダーは全員に発言をさせる。特に物の問題だけではなく人の行動の危険を見をうながす。
- ⑤ 時間内にできるだけ多く発見するようする。

第2ステップ これが危険のポイントだ……………（特に重要なものは）

- ① 模造紙に書き出された項目を順に読み上げて確認する。
- ② 特に「みんなの関心の高いもの、重大な事故の可能性のあるもの」に◎印をつける（2～3項目にしぶり込む）。
- ③ 全員起立して◎印項目を指差し「危険のポイント××， ××， ヨシ！」と唱和する。

第3ステップ 私ならこうする……………（具体的な対策をたてる）

- ① ◎印を付けた重要な危険要因として「予防したり防止したりするのに」一人ひとりがどうしたらよいか考えさせる。
- ② 「私ならこうしよう、こうすることが必要だ」と実行できる対策を出させる。
- ③ 一つの◎印に2～3の対策を考え、「グループとしてこうすべきだ」という共通の行動内容の対策を考える。

第4ステップ 私たちはこうする……………（みんなで実行する行動目標を決める）

- ① グループとして「必ずしなければならないこと」を重点項目として決め○印をつける。
  - ② ○印は1～2程度とし、その項目をスローガン化し行動目標とする。「～をして～しよう」といった具合。
  - ③ グループ目標を全員起立して指差し唱和する。
- 以上が1回の手順ですが、初めのうちは大体1ステップ当り10分～15分を見ておきます。回を重ねるにしたがって時間を短縮していく、全体で20分～30分でできるようにするとよいでしょう。

危険予知トレーニングシート⑩

みんなで考えよう



どこがあぶないかな？

(状況)

五連発の打上げ花火を上げようとしています。

みんなで考えよう



どこがあぶないかな？

(状況)

みんなそれそれ竹トンボを作るのに夢中になっています。

危険予知トレーニングシート⑪

（全子連「こうしてすすめよう！子ども会KYT」より）



どこがあぶないかな？

(状況)

みんなで川遊びをしています



どこがあぶないかな？

(状況)

球技大会をするところです

(やる前に、どんな危険があるか考えてみよう)

伊藤 昭彦

★この頁に限り、作者の了解を得ていますからコピーをとってお使い下さい。

# みんなで考えよう

危険予知トレーニングシート ⑥②



どこがあぶないかな？（状況）

キャンプ場で食事のしたくをしているところです

今回は三重県四日市市で実際に使用したシートを掲載します。（小林 名美）

## KYTシート活用のポイント

●このシートは子どもたちのための危険予知トレーニングシートです。

の絵本といひ可いのです。木彫りした蟬をとつた

描かれ方です。  
トーハーの中の取扱い線香などが描かれてるね」とさす  
と経験したいたいなのか、それともキャラクターの注意事項をどう  
のけて描いたものなのでしょうか。

★子ども会KYTを

安全教育の一環として、キャラクターの諸注意をしました。

その注意事項がどれだけ手とてたか理解したのかを一つ一つ丁寧に教わった。この間、彼は常に筆記用紙を持ち、筆記用紙に問題の説明や解説を記入していった。

るだけで内容の確かめをしないで終わっていることが多い

ひつなかいのなつかのじゆ。

おれは、この仕事に挑戦した事項をアドバイスを参考して、自分で実験してみた。

伸びたばかりで、トベトベの田で裸火を使って丘に火をかく  
心意を要します。裸火で火をかくと「裸火」ですわ。眞体  
の「取扱説書」「口づつ」をトベトベの田で焼かないと  
はトベトベがとても燃えぬから生垣で出来てこの火を燃で  
す、などと説明を加えね」とこゝ。

要があります。

モード

宇田川光雄



①「やむを得ない」を「やむを得ない」で危険の要因（物や人間の行動）を発見し（第一ステップ）  
②特に重大な事故につながる危険のポイントを「二三項目」に、みんなの同意を得

でシホー」とお（第一ハチ）

(第二ステップ)

◎私がなほよしといふが心上で実行する行動目標を、なるべく具体的

なスローガンを考え出して「～して～しよう！」とみんなで描画（第

（結）アーティストの仕事は。

〔一〕全子連形參照

A small, stylized figure of a person, possibly a child, standing and holding a long, thin object, likely a branch or a piece of wood, with both hands. The figure is drawn with simple lines and has a round head.

# 資 料

- 1 活動事例にみる安全教育の工夫
- 2 「安全教育とは」を講義する
- 3 要注意人物の二つのタイプ ～ぼんやり君とうっかり君～
- 4 子ども会K Y Tの活用法
- 5 「安全教育」研修会での学習の進め方
- 6 ビデオフォーラム—その2
- 7 危険予知トレーニング 9ステップのすすめ方
- 8 子ども会K Y T模造紙版・O H Pフィルムの活用方法
- 9 9ステップ K Y T記入シート



みんなで植えて、みんなで育てる



お年寄りのみごとな手さばき感心しきり

## 水の事故防止への

### 一工夫

夏休みの子ども会活動に、海水浴、プールでの水泳教室はつきものです。育成者として一番神経を使う活動ともいえる水の事故防止への対策は…。

### ● プール管理者の養成

プール管理者養成講習会を開きます。子ども会夏季プール指導の実際を、衛生管理、水質基準、安全指導、監視の方法、救急手当ての方法、呼吸蘇生法、運搬法、プール内でのゲームのやり方などについて三日間の実習を行ない、プール管理者資格の認定を子ども会で行なっています。質の高い管理者をめざして参考者は大奮闘。(東京都葛飾区)

### ● 海の中のプール

臨海子ども会での工夫です。①子どもたちが二人組(ペディッシュ)をつくり、互いに相手を意識し助け合わせている。②子どもの能力を考慮した色防止(赤帽)を別組織にして対応している。③黄色のタスキをさせ目印になると共に、万ーの場合の引き上げ用にしている。特徴的なことは、ゴムホースを使って安全な遊泳区域をつくり、上がる時には

地曳網を引くようにたぐり寄せて全員を水から上げます。これで確認も出来る訳です。(群馬県桐生市)

### ● 帽子と手首の輪のアイデアで

まず、砂浜の清掃から始めます。ガラスの破片や空缶など砂浜は思わぬ危険がいっぱい。その後番号のついた帽子と

手首にはめる輪(一人一セット)を渡します。海に入る時は育成者に帽子を渡し、海から上がりってきたら手首にはめる輪を取り替えます。この方法で、海に入っている子の数と名前が一目で把握できました。

### 農作業を通して思われる発見

手首にはめる輪(一人一セット)を渡します。海に入る時は育成者に帽子を渡し、海から上がりってきたら手首にはめる輪を取り替えます。この方法で、海に入っている子の数と名前が一目で把握できました。

### 道具を正しく使っての工夫

既製商品の中で育つ現代っ子は、生産、創造の機会から遠ざかり不器用で物を大切にしないと言われます。また、日常で使用するナイフ、ノコギリ、キリ、針など歩まちがえれば大事故も起こりかねない凶器となりうる道具の正しい使い方を教えることは、大人の大切な役割です。

道具を正しく使えるようになつた子どもは、道具の役割を知ります。役割を理解できると道具を大切にし、より技術を高める努力をしていきます。

ややもすると指導者からの一方的な教育になりがちな安全教育を、子ども会活動を通して体験から身につけようとする工夫の数々、いかがでしたか。次回は、安全教育活動を支える組織やよりユニークな活動事例をご紹介します。

### ● 三世代ふれあい交流工作会

手玉など故郷に昔から伝わる遊具や民具

# 活動事例にみる安全教育の工夫



水泳教室の安全には万全の策を

樂しい子ども全活動を通して、子どもたちがのびのび成長していくことが、

指導者、育成者の最大の願いです。

そのためには、一つひとつの活動が安全に運営され、

事故の心配がなく展開されることが大切な要素になります。

子ども会活動に安全教育は不可欠だといわれる理由はここにあります。

さて、安全教育のねらいは、子どもたち一人ひとりが安全確保能力を身につけ、それを高めていくことです。

そのため各地で取り組まれている安全教育活動の事例を、

冒険と安全のすすめに掲載した中から選んで紹介しながら、  
安全教育について考えてみましょう。

## K-Y-T(危険予知訓練) に一工夫

● 懐らのK-Y-Tシートをつくる。

生活や遊びの中で、自分たちが気づいたことを、子どもたちの手でK-Y-Tの絵にしました。絵にすることで安全に対する主体的取り組み意識が生まれ、身近

のが、K-Y-Tシートを活用した教育です。活動中の絵を見て、危険を想定されることを見つけ討論を重ねて危険予知能を身につけていきます。それに一工夫力を加えた実践事例です。

重県四日市市)

手づくりK-Y-T紙芝居誕生

紙芝居を語つたら右に出る者がないと

いう特技を持った育成者が、K-Y-T紙芝居を作りました。拍子木の響きと共に始

まる紙芝居安全教育は小さな子どもから

大人まで楽しみながら学ぶ活動と人気

上々です。まさに人材活用の好事例で

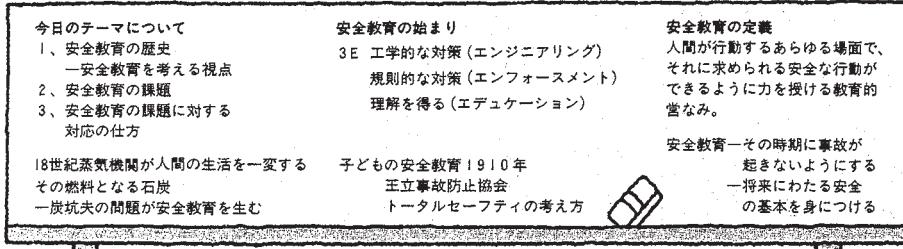
す。(埼玉県飯能市)

いろいろな工夫をこらして「活動の前

にはK-Y-Tを」を合言葉に、全国で様々

な取り組みがなされています。

## 板書の仕方



あるのです。

◎ 石炭は、ご承知のとおり炭坑夫によって掘り出されます。坑内で作業は事故も伴うものでした。炭坑の事故により、生活ができなくなつた人を救う互助的な制度ができ、次第に保険という形に姿を変えしていくのですが、これは事故が起きた後のことです。これに対して『事故が起きた後ではなく、事故が起きる前に』して考えなくてはいけないのです』とする考え方方が生まれました。これが、いわゆる3・E対策とよばれるものです。

炭坑では、落盤が起こらないようにすることに加えて、酸素不足を知るために坑内に鳥を飼うなどの工夫も生まれました。鳥が空気がなくなることで酸欠を知るというものです。坑内に入る時は必ず鳥がを持っていくなどの規則的な対策も生まれました。それだけではなく、水掛けの問題などを科学的に解決していく工学的な対策も設されました。そして、工学的な対策も規則的な対策も、当時の炭坑夫が理解していかなくてはならない訳です。ここに教育というEが必要になつたのです。

では、ここで子どもの安全教育はいつ頃から始まつたのかを考えてみましょう。

これが安全教育の始まりと考えてよいでしょう。

それは、一九一〇年代といわれています。イギリスで王立事故防止協会ができ、子どもの安全教育というセクションを設けたのです。ここで安全教育という視点にはトータルセーフティ＝あらゆる生活場面に関する、子どものころから教育していくことをする考え方があつたのです。

日本では、一つひとつ行動についてその安全を考えていますが、トータルな中で個々をとらえなければ安全教育は不十分なのです。一つのことだけをとらえたのでは、全体に広がるような形にななりません。

このように、子どもの安全教育の始まりは二十世紀の初頭です。その時すでにトータルセーフティの考え方を持つていたのです。

ことと将来にわたり安全に対応するつか  
りした考え方を持つようになります。だと  
考えます。デザイナーになつた人は、子  
どもの時に受けた安全教育の効果がある  
ようにしなければならないということ。  
それには、デザインを考えなければといふ  
考え方ではなく、安全という視点を忘れ  
ないよう子どもの時期に基本を学ぶと  
いうことが必要であるとする考え方です。  
つまり、教育は未来永劫に学んだことが  
生かされしていくことがなければならない  
ということです。

安全教育に関しては、特にこのことを  
強調しなければならないと考えています。  
将来のこうした力を作り上げていくこと  
を考え、理解いただきたい。例えば、  
食べ物に従事していく子であれば、見た  
目よりも安全性を重視する考え方を持つ  
大人になるよう育てることです。

さて、ここで、あらゆる行動ということをとらえていますが、メカニズムから安全についてとらえてみましょう。

一つの行事が事故なく、問題なく進むためには、三つの箱があるのです。人間は誰でも、この三つの箱を持っています。このことは、情報の処理と同じです。

一つめは感覚器官の箱です。この感覚器官を通った情報が、二つめの箱である大脑に入ります。そして行動の箱に指示を出すのです。その指示に従って行動をする箱があります。

(九月号につづく)

# 「安全教育とは」を講義する

1

平成六年度安全教育推進委員研修会を開催し、  
安全教育研究所長 星 忠通先生に基調講義をお願いしました。

今月は、星先生の講義を再現することで、皆様の安全教育活動の参考としたいと思います。

子どもの安全教育について三つの視点から皆様と一緒に考えていきましょう。

一つは、「安全教育をとらえる視点」です。

安全教育という概念ができた歴史をおさえることでその本質を理解していきます。

二つは、「安全教育の課題」を考えてみましょう。

そして、三つめは、「その対応の仕方」を考えていきましょう。

◎  
安全教育の始まり

さて、安全に関する歴史をとらえてみましょう。これは原始の時代から私たち

の課題でした。上手に狩猟をし、けがをしないようにしてきたのです。けがをしないために占いをしたりする精神的なものでした。それが科学的なものとなるのは、安全に対する目標が定まることによります。十八世紀にこのことが定まり

ました。

それは蒸気機関の発達によるものです。

蒸気機関により、私たちの生活は一変したのです。このエネルギー源は石炭です。実は、安全教育を考える出発点は石炭に



星 忠通

安全教育研究所長

交通安全教育学（専攻）

昭和45年9月 ニューヨーク大学大学院修士課程入学

昭和47年8月 同大学院了(交通安全教育学専攻)

昭和48年4月～51年3月 多摩美術大学講師(人間工学)

昭和51年4月 安全教育研究所長

昭和53年4月～56年3月 武蔵野女子短期大学講師(安全教育)

昭和58年4月～日本大学生産工学部講師(心理学)

著書

『交通安全一日一題』(上)(下) 東京法規出版株式会社

『よりよき運転者と歩行者をめざして』広島県ダンプ協会ほか多数

◎

どのような教育が  
求められるのか

### その対応の仕方について

基本的なことをお話ししてきましたが、  
具体的にどうしていけばよいのでしょうか

か。安全能力を身に付け、未来永劫に安  
全に対する基本的な態度を培うにはどう  
したらよいのでしょうか。このことを考  
えてみましょう。

①態度について。  
先にも述べましたが、安全性は人にも  
自然にも優しいということです。洗剤一  
つ取つても環境汚染が問題になります。  
環境を破壊するものは使わないといった  
態度を養うことです。職業人となつても  
このことを基本にした仕事をすることが  
できるようになることです。

そのためには「子ども会での調べ活動」  
を積極的に取り入れていくことが求めら  
れます。知識として座学で学ぶのではなく、  
自分たちが調査をして気が付いてい  
く活動をしたいものです。気が付いたこ  
とが技術としてあります。野外活動での料  
理作りで包丁を使う技術・火起こしの技  
術がなければ安全に活動を進めることができ  
ません。

### ②知識について。

用具の使い方、緊急に対応する能力など  
がしがり身に付いていなければなりません。  
ません。軽い摔倒だからといってひつば  
つたりして、かえつておかしくしてしまう  
ことがあります。徹底して冷やすなどの  
応急手当についての知識も備えているこ  
とが求められます。特に、危険に対して  
予測する能力が求められます。

皆様もご存知のことだと思いますが、危  
険予知能力ですね。予知能力とともに必  
要なのが危険回避能力です。  
さらに、万が一事故にあつたときその  
事故を大きくしない能力が知識としてな  
ければなりません。

### ③技術について。

私の専門の交通安全で捉えますとまつ  
すぐ歩き能力・止まる能力、自転車でい  
えば運転する能力・ハンドル捌きなど  
が技術としてあります。野外活動での料  
理作りで包丁を使う技術・火起こしの技  
術がなければ安全に活動を進めることができます。

これらは一朝一夕に備わるものではありません。積み重ねいくことにより技術  
が身に付くことになります。その年齢

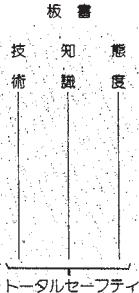
とは実行していくことにつながります。  
です。自ら調べ、その結果を自分の生活  
に生かしていく営みをする態度の養成、  
これが第一です。

にあつた技術・課題があります。  
このことを具体的に知るために子ども  
は異年齢であることが強みだと考えま  
す。  
子ども会については詳しくないのです  
が、子どもたちがお兄さん・お姉さんを  
見て育つしていく中で年齢にあつた技術を  
知ることになると思うのですが、いかが  
でしょうか。このことは皆様の方が専門  
ですね。

### まとめ

一方的にお話をしますが、安全  
教育はあらゆる生活場面で取り組んでい  
くもので、活動を支える基本として身に  
付けていなければならぬことです。  
切りだしナイフのキャップをしないで、  
その場に置いておくようなことは生きて  
いく基本姿勢としてまずいことです。  
子ども会活動は、活動を通して日常生活  
を豊かにしていくものだと聞いていま  
す。活動の喜びと同時に、活動を通じて  
身に付けていく安全に対する態度・知識  
・技術をしつかりしたものとして欲しい  
と願っています。  
安全教育はトータルセーフティなので

私のお話が皆様の活動に少しでもお役  
立てば幸いです。



## 冒険と安全

前号に引き続き、平成六年度安全教育推進委員研修会での星忠通先生の基調講義を再現します。安全教育活動にお役立てください。

星 忠通 安全教育研究所長



# 「安全教育とは」を講義する

(2)

### ◎

三つの箱が  
それぞれ課題となる

三つの箱の一つひとつが安全教育の課題になります。まず感覚器ですが、子どもと大人とは異なることを自覚しないではいけません。例えば、視界を取り上げても見える範囲は異なります。両手で、水中眼鏡を形どつて見るような視界になります。このことを知らずして、私たちは常に大人の目の高さ・視野で判断するのです。

時には「しっかり左右を見なければ危ない」と自分の視野でものを捉え、子どもたちの注意力が散漫であるかのような指摘をするのです。これでは子どもたちはたまなりません。

「ばくは見えないのだよ」などという余裕は与えてくれません。安全教育の課題の一つは、大人の考え方や視野ですべてを見て、進められることです。この間違いを正すことです。

二つめの課題は二つめの箱があります。判断する能力です。この判断する能力は、経験の違いにより異なるのです。

ナイフの使い方を取り上げても経験がもの言うのです。少しの怪我の経験が大人とも大人とは異なることを自覚しないで、水中眼鏡を形どつて見るような視力ではありません。

①知っていると出来ることは違います。

ブールで泳げるようになった子が海で溺れことがあります。海で泳ぐということは水温や水の流れなども知らないで

なりません。よく泳げるという判断は、その子のブールでの経験からのものであり、本当に判別する能力が備わっていることに至っていないことがあります。

②わかっているつもりでわかつていいないことがいっぱいあります。

幼児が九九を知っていても割り算を知ついても、友達とおやつを分けるときに使うことが出来なければ、ものを知つ

ているに過ぎないです。ものを知つて

いることは能力の一部であり、判別するためにはいろいろな経験が必要だと考えます。積み重ねていく体験をどのように生活の中に位置付けていくかが二つめの課題でしょう。

三つの課題は、具体的に身体を動かす行動能力です。身体を使うためには筋力とそれを指示する神経系統の運動が必要です。特に協応動作が大切です。一つの行為にもう一つの行為を重ねる能力です。歩きながらまわりに注意を払うなどがこれに当たります。

この三つの課題を子どものうちから育むことが安全教育の具体的な目標です。先に(先月号)捉えましたが、この教育により、安全性を基にした営みが未永劫に継続していく態度を育てることが肝心です。安全教育とは怪我をしないといふこともあります。態度を養うことが必ず大事な視点なのです。安全教育は、安全に対する態度・知識・技術を養うことです。

た。学生は実験装置も測定器も問題がない、なぜ動かないのだろうと、さんざん頭を悩まし、調べた結果わかったことは、昨日うまく行ったときと何も変わつておらず、なにも壊れていないということでした。

しばらくして、何が原因かがわかつたか聞いたところ、なんと測定器のコンセントがひとつ抜けていたそうです。

実験に関する専門知識や実験装置の取り扱いに関する細かい約束事が頭の中を占領してしまうと、そればかりが心配になつて、単純なことや本質的なことに気づきにくくなるのです。また、取り扱う対象が複雑なシステムである場合には、動かない原因も複雑なものであると思いこんでしまいますが、失敗や不具合の原因は、案外単純で身近なものであることが多いようです。

## ● ほんやり君と うつかり君

以上二つの話から危険に巻き込まれやすい二つのタイプについて考えてみたいと思います。ほんやり型とうつかり型です。

ほんやり型の学生は対象物に対する興味が少なく、緊張感が感じられません。

しばらくして、何が原因かがわかつたか聞いたところ、なんと測定器のコンセントがひとつ抜けていたそうです。

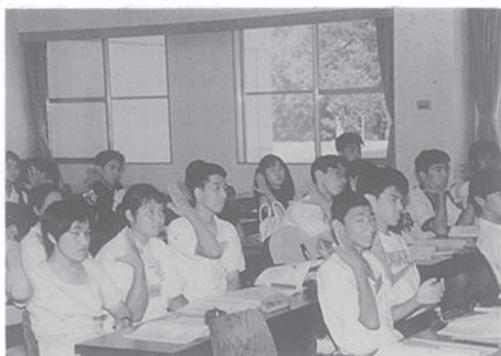
実験に関する専門知識や実験装置の取り扱いに関する細かい約束事が頭の中を占領してしまうと、そればかりが心配になつて、単純なことや本質的なことに気づきにくくなるのです。また、取り扱う対象が複雑なシステムである場合には、動かない原因も複雑なものであると思いこんでしまいますが、失敗や不具合の原因は、案外単純で身近なものであることが多いようです。

## ● 学生への処方箋

私は学生に対して次の二つのことを要求しています。

まず自分にどういうタイプであるかはつきり自覚することです。これは自分に対する責任感を育てることであり、周囲に対する責任感を育てることでもあります。私自身小さい頃から「飛び出したらダメよ」と言われ続けてうんざりしましたが、自分がうつかり型であるとわかつてからは行動が少し慎重になつたよう思います。

## ◎ もつとトラブルに 親しもう



第26回全国子ども会リーダー研究集会より

## 冒険と安全

# 要注意人物の二つのタイプ

ほんやり君とうつかり君

河村 隆

信州大学講師

けが人が出ないかな  
—緊張感の必要性—

でる方がいいなんて……その実習だけが  
をした生徒がでなかつたのは、ほかの生  
徒も私と同じように背筋が寒くなつたか  
らでしよう。

私が中学生だったとき、技術家庭科の  
授業で木工機械を扱う時間がありました。  
このとき、先生は機械の基本操作と、そ  
の作業にある危険な箇所を熱心に話した  
後こう言いました。

「どんなに予め注意を促しても必ず事  
故が起こります。それはほとんどの場合、  
緊張感が足りないからです。注意してい  
るつもりでも緊張感がなければ事故が起  
こります。私の願いは、一刻も早く誰か  
がけがをしてくれないか」ということです。  
そうすればみんなの緊張感が高まります。  
これが結局はいちばん安全なのです」。

この話を聞いて、わたしは少し背筋が  
寒くなりました。先生というのは生徒の  
安全を第一に考えているのではないか  
のか。みんなのためとはいえ、けが人が  
が

コンセントが  
抜けています

—注意力も大切—

私は現在、理系の大学で講師をして  
いますが、学生に実験をやってもらつた  
ときのことです。

はじめに学生に実験の内容、装置、期  
待される結果を説明して実験をやってみ  
せました。装置は正常に動いており、正  
期待通りのデータをはじき出していま  
した。

翌日、本格的に実験を開始するはずで  
あつた学生が血相を変えてやつてきまし  
た。「先生、装置が壊れました」。

装置に故障はつきものですが、危険を  
伴う場合もあるので、私が、けがはなか  
つたか聞いたところ、「そうではありません。データが全然  
でてこなくなりました」。

装置を昨日のセッティングから何かい  
じつたか聞きましたが、何もいじつてな  
いとのこと、それはおかしいなといふこ  
とで、詳しく調べてみると、



第26回全国子ども会リーダー研究集会で指導中の筆者

子ども会KYTの意味を研修活動で理解し、活動の事前に必ず実施することがKYTを有効活用していくことになるのです。

### ▼導入段階

導入段階では、意欲づくり・動機づけがポイントになります。

「キャンプに行つたときです。とても良い気分で、ついうつかりすることがあります。

にグループを作り、話し合わせる何も意見を言わないで終わってしまいます。さて、丸を付ける作業はこの他に氣を取られて、熱いおなべに触ったり、テントの中が暗いのでロウソクをつけてしまったりします。今までキャンプについていろいろ勉強してきました。そのことは、おさらいも兼ねてこれからKYTシートを配りますから、ますますの、代表者とりにきてください」と進めます。一人ひとり

### ◎安全教育(安全学習) 研修会での子ども会 KYTの持ち方

子ども会KYTを学習教材として用いるには、KYTシートによる危険箇所を捜すだけで終わっては、クイズの間違え捜しと同じになってしまいます。KYTの学習は、具体的なことを学び、それを一般化してはじめて他に応用できる形として定着するのです。具体的なことを抽象化する能力は、小学校三年生から四年生にかけての課題でもあります。また、子ども

ここまでが子ども会KYTの導入です。この導入段階がとても大切です。これから作業や活動を左右するといつても過言ではありません。

「よいイメージはよい行動を生む」というわけです。

次号は子ども会KYTの展開・整理について掲載します。

まずは一人ひとりで付けてみるとします。十か所丸を付けたましょ。う箇所に丸を付けてみましょう。Y字型の班であります。まずは、一人より多くの人たちで見た方がいろいろな点で優れています。

「どの班が一番あげることができることが大きなかっこいいのです。子どもたちが目を輝かせて取り組むよう展開する必要があります。

平成六年一月号以前の本誌ならびに「こうしてすすめよう子ども会KYT」(全子連刊)をご覧ください。

# 子ども会KYTの活用法

## ◎はじめに

子ども会KYTは、産業界における危険予知トレーニングをもとに考案されたものです。毎日の作業過程において注意を怠ると災害につながる点をイラストにより事前にチェックする目的で作成され、労働災害をゼロにするための研修活動で用いられました。

時間をかけて作業を振り返り、よく陥る点を確認し、安全行動の方法を探るものですが、作業は毎日繰り返されるものであり、毎日研修会をすることはできません。

## ◎子ども会KYTの活用法

そのため月一回の研修会やミーティングができればよいという状況であったようです。しかし研修会

で安全に対する心構えができる日ごとにその意識は薄れていくものです。そこで毎日の作業前に、手短に行なう方法などが考案され、いつながら点をイラストにより事前にチェックする目的で作成されました。

KYTが誕生することになり、新KYTは、「みんなで、はやく、正しく」をねらいとして作成されました。

毎日の作業前に今日の仕事にいたる心構えを作りだすねらいで、ゼロ災害運動方式KYTは幾多の実践から生まれたのです。

毎日の作業前に今日の仕事にいたる心構えを作りだすねらいで、必ず実施」を合言葉にし、充実した活動を開拓したいのです。ところどころに活用するためには、

子ども会KYTも、「活動の前にも効果はありません。研修会だけでは実際と結び付かなかつたり、活動の前だけ行なうのでは、KYTに馴染みがなくてはなりません。そこで次の二通りの学習を進めてほしいと思います。

両者はそれぞれ単独で行なっても効果はありません。研修会だけでは実際と結び付かなかつたり、活動の前だけ行なうのでは、KYTに時間がかかりすぎるといった状況があることと何故やるのかという意義が理解されないでしょう。

●子ども会KYTを徹底して学習者を対象にした研修会で実施されていて安全教育研修会の中心となる学習内容でもあります。しかし、産業界では毎日の作業前にKYTを実施する習慣が確立されていました。子ども会でも同じように活動前に危険に対する心構えを産業界と同じようにつくる必要があります。

●活動の前に必ず子ども会KYTを実施すること

活動前に進める時間的な余裕がないときは、家庭での学習やバスでの移動時間などを活用することも考えられます。



## ◎話し合い

- 話し合いの方式

人數が多い場合はバズセッション

を活用して多くの人が意見を言える

ようになる。

- 感想から話し合う。

- 共通するものを出し合う。

- 一人ひとりの生活体験に引き寄せる。

- 具体的なことを抽象化することを

通して本質的なことを理解する。

- 整理し、ストーリーガンなどにして、

強力に実践することを約束する。

- ビデオを使った学習の組み立て方

○学習の段階を三つに分ける。

- ステップ1「安全教育の基本」

- ステップ2「準備・計画」と子どもたちの成長

- ステップ3「運営方法」

- ステップのそれぞれの時間配分

それぞれの段階で十分な話し合いができるようにそれぞれ1時間30分ずつは必要とする。

## ◎日程の組み立て

それを個別に学習することが

できるので、月一回として二か月を

ワンクールとして日程を組み立てる  
ことができる。  
**方**  
○安全教育の基本  
制作意図と上映前の解説  
(事前指導)  
「子どもたちは自然の中や遊びの  
中で冒険に挑み、その体験から安全  
の力を身に付けていきます。しかし、  
現在は残念ながら遊び場も時間も奪  
われてしまつた子どもたちです。そ  
んな中で、キャンプなどの活発な活  
動に取り組んでいる子ども会の役割  
は大きいと言えるでしょう。

●ステップ1「安全教育の基本」  
①子どもたちが「目を輝かせる」  
視点と安全教育  
②親への意識改革と安全教育  
「ではここで、以上の話し合いを  
ストーリーガンとしてみましょう。」とな  
げかけて、小グループでストーリーガン  
づくりに入る。  
●ステップ2「準備・計画」と子どもたちの成長  
「なにもしないで、ジッとしてい  
れば確かに事故にはあわないでしょ  
う。それで本当に子どもたちは成長  
事故を恐れるあまり『あれをして  
はいけない』これも危険だからダメ  
ですね。ストーリーガンは掲げておくだ  
けでは意味がありません。いろいろ  
な機会に大きな声で読み上げてみま  
しょう。そして、ストーリーガンの精神  
を具体的に展開していきましょう。」

●ステップ3「運営方法」  
表し合う。  
「どのストーリーガンもとてもすてき  
と禁止すべきで事故防止に必要な安  
全能力が身に付くはずはありません。  
むしろ子どもたちの発達段階に応じ  
てその時期に必要な体験を十分にさ  
せることが、自分自身で事故を防ぐ  
とまとめ。(ステップ2と3は次号)

まとめ方として次のようになります。  
①子どもの行動に関するこ  
ことになるのではと話し合いました  
②大人の行動に関するこ  
と

③課題解決した行動に関するこ  
と

④自分の子ども会の課題との関係か  
らとらえだすこと

⑤その他

自分にもこれだけの力があるんだと  
いう自信に溢れた活動の体験の場が、

今こそ必要だと話し合ってきました。」

などとまとめよう。

●ステップ1のまとめ  
ストーリーガンをつくり、発表する

「ではここで、以上の話し合いを  
ストーリーガンとしてみましょう。」とな  
げかけて、小グループでストーリーガン  
づくりに入る。

●ステップ2のまとめ  
表し合う。

「どのストーリーガンもとてもすてき  
ですね。ストーリーガンは掲げておくだ  
けでは意味がありません。いろいろ  
な機会に大きな声で読み上げてみま  
しょう。そして、ストーリーガンの精神  
を具体的に展開していきましょう。」

これまで、「安全教育推進」についての数多くの実践活動を掲載してきました。その内容から学び、自分の子ども会活動に生かされている所も多いことと思います。

今月から三回にわたり、安全教育の学習方法と教材について紹介し、六月号から実践活動を掲載いたします。

## 「安全教育」研修会での

### 学習の進め方

#### はじめに

「安全教育」研修会を開催すると

き、その主旨はよく分かるが、具体的に学習を進める段になると、一番先に思い付くのが「子ども会KV-T」であろう。子ども会の安全教育の教材は「子ども会KV-T」をもつてす

べてと考えていないだろうか。

確かに安全教育に関する教材につ

いては多く紹介されていないのが現

状であるが、全国子ども会連合会が

制作した映画「冒険と安全シリーズ」を活用しているだろうか。

さらには映画よりも操作等が簡単で

あるビデオについてはご存じである

今月はこのビデオを活用した学習

方法について紹介をしたい。

#### ◎上映前の解説

上映前の解説は何のためにこのビデオを見るのが目的意識を醸成することに意味がある。詳しく解説過ぎて興味を半減させてはならない。解説時間は2~3分程度とすること。時には解説せずにすぐにビデオを見る方法もあつてよい。

#### ◎映写開始

映写中は解説を入れずに、運営者は、見ている人たちの行動を観察する。中には熱心にメモをとり、涙を流す人もいる。この状況を見ておき、映写後に見ている人たちの態度について運営者がコメントすると

#### ◎ビデオの選び方

どんなビデオを選ぶかにより、学習効果を上げることができるかが左右されると言つても過言ではない程度ビデオの選択は重要である。





た子どもたちが徐々に真剣になります。はじめてのテント設営。野外炊事での材料を忘れた子の行動と助ける班員たち。喧嘩をしても翌日のウォーカーラリーでは班がまとまっていきました。子どもたちははじめての体験の中でぶつかりあり助けあって成長していました。キャンプ計画の中で事前準備の話し合いがもなされました。テント設営、野外炊事など活動の基本となる技術の修得。不安やためらいを克服するためのキャンプ活動の全体的なイメージ作りなどの確認です。安全に関しては、事前一週間の

— 事前指導

水の事故ゼロへの願い



(2) 事故を防ぐチェックポイント  
3つの確認

らんだ水辺の活動でも、慎重な下見、安全水域の確保、班別・色別の監視体制、バディ・システムなどによって子どもたちの安全が図されることを学びました。これらの考え方を他の

### 三 話し合いの進め方

★まとめの例

水辺の活動の必要性は分かつていても、事故を恐れるあまり、ともすると活動が停滞しがちです。こうすれば自信がもてると言えるところまで話し合いましょう。」

四  
語  
合  
一

<p>水辺の活動の必要性は分かつても、事故を恐れるあまり、ともすれば自信がもてると言えるところまで話し合いましょう。」</p>
<p>四 話し合い</p>
<p>五 話し合いの結果を発表する</p>
<p>六 まとめ</p>
<p>★まとめの例</p> <p>命に拘わる事故を招く危険性をはらんだ水辺の活動でも、慎重な下見や安全水域の確保、班別・色別の監視体制、パディ・システムなどによって子どもたちの安全が図れることを学びました。これらの考え方を他の活動に応用する必要があります。そのためには、日常の班活動の充実で活動での拘わりやすい密度にも左右されるとからです。長期ビジョンを持つて、一年間の見通しを立て展開することや事前準備・計画のためには日程計画も必要になります。以上ステップ3から学んだことを実践に結びつけ、子ども会活動を充実させていきましょう。</p> <p>(4) 他への応用</p> <p>「このビデオで学んだことを、他の活動でも役立てるには、班別・色別監視体制などの安全への配慮をどのように応用することができるでしょう。」</p> <p>(3) 事前踏査(入念な下見)について調査のポイントを列举してみよう。</p> <p>(2) 事故が起る状況について事故を防ぐチェックポイント</p> <p>(1) 事故が起る状況について3つの確認</p> <p>(4) 他への応用</p>

# 「安全教育」研修会での学習の進め方 ビデオフォーラム——その2



とを板書します。

- (1) 「安全教育の基本」について学んだことをもとに、具体的にキャンプ活動を通して再確認します。

- (2) キャンプ活動を通じて、子どもたちは何を身に付けていくのかを話してみましょう。

先月号に続き、ビデオを使っての学習について取り上げてみましょう。先月号では、「この日の輝きを」を使って「安全教育の基本」について考え合ったための手順を記載しました。

子どもたちは、発達段階に応じて必要な体験をすることが設定され、その活動を通じて事故防止に役立つ能力が身に付いていくことを学び合いました。

今月は、この安全教育の基本を受けて、子ども会活動の準備、計画と子どもの成長という視点から「キャンプ」を、具体的な運営方法を学ぶという視点から「水の事故ゼロへの願い」を取り上げ、その実施手順を記載しましょう。

## ●ステップ2

### ★キャンプ

#### ★準備・計画と子どもの成長★

##### 一 事前指導

事前指導については、次のように具体的に進めましょう。

「子どもたちは、キャンプを通して、自然との交わりを深め自然の営みと共に生きることを学びます。また、子どもたちの興味、未知への新しい経験や冒険心を満たしてくれる活動がキャンプです。このビデオはある子

ども会が初めて実施するキャンプの様子の記録です。生き生きとした子どもたちの姿が印象的です。キャン

プの実施にあたっては、事前の周到

で綿密な準備の必要性、指導者の安全への目配りや配慮の大切さなど、キャンプ実施上の基本的な事項を提示しています。

このビデオを通して次のことを考えてみましょう。

●キャンプ活動とは。

●キャンプ計画を立てる時のポイントは。

●キャンプ活動の中での子どもたちの成長の姿を具体的に捉えてみよう

このよつが事前指導の後ビデオを観賞します。

四 話し合い

五 話し合いの結果を発表する

このよつが話し合いを進めるために、次のこ

とを板書します。

「安全教育の基本」について学んだことをもとに、具体的にキャンプ活動を通して再確認します。

(2) キャンプ活動を通じて、子どもたちは何を身に付けていくのかを話してみましょう。

(3) 事前の準備で何が必要なのかを次の一点からまとめてみよう。

① 子どもの成長への視点

② 安全への配慮

六 まとめ

三 話し合いの進め方

★まとめの例

キャンプ活動を通して子どもたちが成長していくことを話し合いまし

た。山道を登る時にふざけあつてい

## 危険予知トレーニング 9ステップのすすめ方

○KYT 4ステップより分類を細かくし、危険箇所の理由や具体的な安全対策を考え、日常生活にKYTをどう生かすかを考えるのがKYT 9ステップです。

### KYT 9ステップのすすめ方

- (1) KYTの特色……………4ステップと同じです。
- (2) 準備……………4ステップとほぼ同じですが、KYT記入シートがあると進めやすい。  
(※記入シートはP54～参照)

#### ステップ1 導入段階……………意欲づくり・動機づけ・危険の発見

- ① 一人ひとりイラストシートを見て、危険な箇所に○をつける。
- ② グループ毎で発表を行い、自分では気がつかないことも発見できるようにします。
- ③ グループで危険箇所をまとめます。このとき、危険な理由も考えます。

#### ステップ2 展開段階①……………危険箇所の発表

- ① グループでまとめた危険箇所を、1グループ1つずつ発表していきます。その時、「なぜ危険なのか」を合わせて発表してもらいます。

#### ステップ3 展開段階②……………危険箇所の絞りこみ・分類

- ① ステップ1で記入した「危険箇所」は次の6項目のどれに当てはまるかを考え、シートに記入する。

・『人の行動』……………○印	・『場所の問題』……………☆印
・『用具の危険』……………△印	・『子どもたちの心理状況』……………◎印
・『服装の問題』……………□印	・『子どもの体力』……………*印

#### ステップ4 展開段階③……………分類ごとに1つを選ぶ・1番重要なものを発見

- ① グループ毎で分類した項目ごとに一番重要な危険箇所を1つずつ選びます。また、それが一番重要なのか理由を考えます。

- ② 項目ごとに決めた一番重要な危険箇所を発表します。

#### ステップ5 展開段階④……………具体的な対策を考える

- ① 全体で決めた各項目の重要な危険箇所に対して、どのようにすればよいか具体的な対策をグループ毎に考えます。

#### ステップ6 展開段階⑤……………実行計画による確かめの行動 スローガンの作成・指差唱和

- ① 安全に対する備えができたところで、グループ毎にスローガンを決めます。
- ② グループのスローガンを全員起立して指差唱和をします。

#### ステップ7 展開段階⑥……………スローガンを全員の前で発表

- ① 練習したスローガンの唱和を全員の前で発表をします。

#### ステップ8 展開段階⑦……………発表に対するまとめ

- ① 指導者が各グループの発表に対する講評をしますので、そのまとめを記録します。

#### ステップ9 整理段階……………一般化する

- ① KYTで学んだことを日常生活の中にどう生かせるか考え、自分の言葉にします。

・個人やグループで行う作業は時間を決めておくと、全体がスムーズに流れます。

(全子連「みつけたキケンくん」より)

## 子ども会KYT模造紙版・OHPフィルムの活用方法

### ○子ども会KYTを指導して

子ども会KYTは、子どもたちの学習意欲を引き出す安全教育として、皆様から喜ばれているものです。実際にKYTを子どもたちと一緒に学習していると変なところに引っかかるところを見ました。KYTをすすめているときの子どもたちの会話をです。

\*発表するための模造紙（B紙）に向かって

「この模造紙（B紙）に書くんだって」

「何を書くの」

「危険なところだってさ」

「書けないよね、長くなるぞ、この子があぶないので○をつけたけれどなんて説明すればいいんだ。面倒だね」

「おれ、字が下手だから、書かないよ」

「ひらがなでいいかな」

このような会話を必ずあります。この中には大きく2つのことが話されています。1つは危険な状況を文書で書くことが難しいということです。もう1つはグループで話し合ったのですが、模造紙（B紙）に書くのは、代表者1名であるということです。

このことを解決するためには、模造紙（B紙）に書かないで、発表することしかありません。しかし、この方法だと、どのグループが何を言ったか指導者が書き留めなくてはなりません。子どもの発言を黒板に丁寧に書いていく作業は、そう簡単ではありませんし、時間もかかります。

このことを解決したのが、模造紙大やOHPを使用したKYTシートです。発表するとき大きな絵やスクリーンで大勢見れますし、模造紙版だとマグネットでOHPシートだと水性ペンで危険箇所を簡単に指摘することができます。また、色違いのマグネットや水性ペンでグループ発表の色分けや危険箇所の分類をすることができます。

### ○使い方

（説明は模造紙版です。OHPシートも同様なやり方です。）

「子ども会KYT」研修会にて

①黒板にKYT模造紙版を貼ります。

②KYTの説明をするときに、実際に使って説明するとよいでしょう。

「この大きな模造紙版の絵と同じものをこれから皆さんに配ります」というように説明します。

③各グループから発表をしてもらいます。そのとき代表者が前に出てきて、危険な箇所を差し示すようにします。

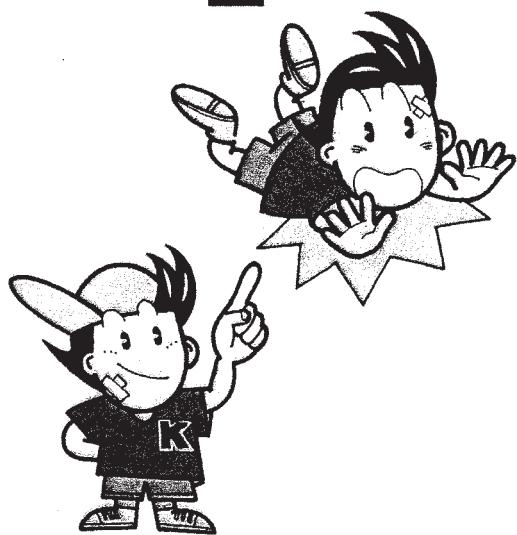
④全グループが発表し終えたところで、危険箇所の分類に入ります。

「用具に危険は赤いマグネット、人間の行動は黒いマグネット」とマグネットの色を指定し分類した危険箇所を模造紙版の上に明確にします。

⑤分類された危険箇所のそれぞれの色から1つだけ残す作業をします。

「この黒いマグネットで示された人間の行動のうちで一番危ない、危険度の一番高いものはどれか。また、よく起こる事故についてチェックしてみましょう」という具合にし、危険箇所を絞り込みます。このとき、黒板を見て作業をするのではなく、自分たちが記したシートで作業するようにします。グループの結束力が拡散しないためですから、必ずシートで作業するように指導してください。

# KYT 記入シート



シートNo		シート タイトル	
名 前		グループ名	

## ◆ステップ1 《導入段階》

それぞれが考えた危険なポイントを下の表にグループでまとめましょう。

また、「なぜ危険なのか」その理由も考えて記入しましょう。



	グループでまとめた危険なポイント	なぜ危険なのか・危険の理由	分類
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

## ◆ステップ2 《展開段階①》

上の表にもとづいて発表します。



シートNo		シート タイトル	
名 前		グループ名	

### ◆ステップ3 《展開段階②》

ステップ1で記入した「危険なポイント」は、次の6項目のどれに当てはまるかグループで考え、K Y T 記入シート①の表の「分類」のところにマークを記入しましょう。

- 「人の行動」について ..... ○印
- 「用具の危険」について ..... △印
- 「服装の問題」について ..... □印
- 「場所の問題」について ..... ☆印
- 「子どもたちの心理状況」について ..... ◎印
- 「子どもの体力」について ..... \*印

### ◆ステップ4 《展開段階③》

(1) 分類した項目（同じマーク）ごとに1番重要な「危険なポイント」を1つずつ選び、下の表に記入しましょう。また、なぜそれが1番重要なのか選んだ理由も記入しましょう。



- 「人の行動」について／○印

1番重要な「危険なポイント」	選んだ理由

- 「用具の危険」について／△印

1番重要な「危険なポイント」	選んだ理由

- 「服装の問題」について／□印

1番重要な「危険なポイント」	選んだ理由

- 「場所の問題」について／☆印

1番重要な「危険なポイント」	選んだ理由

- 「子どもたちの心理状況」について／◎印

1番重要な「危険なポイント」	選んだ理由

- 「子どもの体力」について／＊印

1番重要な「危険なポイント」	選んだ理由

シートNo		シート タイトル	
名 前		グループ名	

(2)全体で決めた項目ごとの1番重要なポイントを記入しましょう。



●「人の行動」について

1番重要な「危険なポイント」	具体的な対策

●「用具の危険」について

1番重要な「危険なポイント」	具体的な対策

●「服装の問題」について

1番重要な「危険なポイント」	具体的な対策

●「場所の問題」について

1番重要な「危険なポイント」	具体的な対策

●「子どもたちの心理状況」について

1番重要な「危険なポイント」	具体的な対策

●「子どもの体力」について

1番重要な「危険なポイント」	具体的な対策

シートNo		シート タイトル	
名 前		グループ名	

### ◆ステップ 5 〈展開段階④〉

全体で決めた項目ごとの1番重要なポイントについて、  
どのようにすればよいのか具体的な対策をグループでまとめ、  
K Y T 記入シート③の表の「具体的な対策」のところに記入しましょう。



### ◆ステップ 6 〈展開段階⑤〉

グループで話し合い、行動目標としての「スローガン」を決めましょう。

--

### ◆ステップ 7 〈展開段階⑥〉

発表のための役割分担をしましょう。  
また、どのように発表するかを確認しましょう。



発表者	
発表補助者	
発表の手順	(1)整列（グループのメンバー全員） (2)礼 (3)グループ名を言う (4)発表者の名前を言う (5)グループでまとめたことを発表する a ) スローガンを発表する b ) スローガンを決めた理由を述べる c ) スローガンの指差唱和全員で行なう (6)発表終了、整列 (7)礼（すばやく席に戻る）

シートNo		シート タイトル	
名 前		グループ名	

## ◆ステップ 8 《展開段階⑦》

発表に対するまとめを記録しましょう。



## ◆ステップ 9 《整理段階》

今日学んだことを今日からの日常生活の中にどのように生かせるか考えましょう。





# 自分でつくろう！子ども会KYT

自分たちの手でKYTシートを作成することによって、「子ども会KYT」の活用に関してステップアップすることになります。下の手順にしたがってKYTシートを作ってみましょう。

1. 日常生活や行事活動等の中で、あなたが「危ない」と思ったことや実際にケガをしたことなどの場面をイラストにしてみましょう。



2. イラストができたら、どこが危ないかを箇条書きにしましょう。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

(7)

(8)

(9)

(10)

3. イラストにタイトルをつけましょう。 (本誌掲載の危険予知トレーニングシート参照)

みんなで考えよう

どこがあぶないかな？

(状況)

# 安全教育参考資料の紹介

## 安全教育参考資料

○安全教育の視点	A 5 判	56ページ	260円
○安全教育ノウハウ	B 6 判	32ページ	160円
○こうしてすすめよう子ども会K Y T	B 5 判	52ページ	320円
○みつけたキケンくん	B 5 判	76ページ	500円
○みつけたキケンくん模造紙版		24シート	3,000円

※申し込み問い合わせは… 市町村子連または県子連事務局まで

行進曲の早さで

愛知県子ども会の歌  
(小さな手)原道夫 作詞  
星野静子 作曲  
森一也 編曲

The musical score consists of six staves of music for voice and piano. The lyrics are written below each note. The first staff starts with 'うつわ るそら うつわ るそら' and ends with 'うつわ るそら' (repeated). The second staff starts with 'うつわ るそら うつわ るそら' and ends with 'うつわ るそら' (repeated). The third staff starts with 'うつわ るそら うつわ るそら' and ends with 'うつわ るそら' (repeated). The fourth staff starts with 'うつわ るそら うつわ るそら' and ends with 'うつわ るそら' (repeated). The fifth staff starts with 'うつわ るそら うつわ るそら' and ends with 'うつわ るそら' (repeated). The sixth staff starts with 'うつわ るそら うつわ るそら' and ends with 'うつわ るそら' (repeated).

小さな  
手一  
両手をしつかりにぎろうよ

みんな小さな手だけれど

ごらん大きな輪ができる

明るいまちの花ひらく

ああのしい愛知の子ども会

二  
両手をまっすぐのばそうよ

みんな小さな手だけれど

高い空まですぐとどく

明るいゆめがあふれてる

ああのしい愛知の子ども会

三  
両手を元気にならそうよ

みんな小さな手だけれど

いつか世界の朝をよぶ

明るいあすがやつてくる

ああのしい愛知の子ども会

## **愛知県子ども会連絡協議会**

〒460-0002 名古屋市中区丸の内 2-4-7

愛知県社会福祉会館内

TEL (052) 231-0140

FAX (052) 232-2050

1冊 200円